

4. 看護行事

(1) 看護の日記念行事

ナイチンゲールが生誕した5月12日（看護の日）にちなんで、5月8日～14日の7日間、「看護の日・看護週間」記念行事を開催し、患者及び家族、一般の方に看護に気軽にふれていただいた。

- 1) 白衣の変遷 看護部より、写真による白衣の変遷と、明治・大正・昭和時代の白衣を5月8日～14日の間、正面玄関エントランスホールに展示した。
- 2) 作品展示 入院生活で感じたことの俳句や川柳、詩、似顔絵などを募集した。患者や家族から23作品と、院内学級（大阪府立刀根山支援学校）の生徒から作品の提供があり、5月8日～14日の間、正面玄関エントランスホールに展示した。また、地域住民や協力者からの作品の展示も同時に行った。
- 3) ふれあい看護体験 日本看護協会主催のふれあい看護体験として、5名の高校生を受け入れた。午前には手指衛生の演習など感染対策の講習の後、病棟での看護体験として、看護師の指導の下に血圧測定、車椅子による移送介助、清拭、足浴、配膳などを行った。昼食には病院食を試食し、午後から外来やベッドセンター、ドクターヘリなど院内の見学を行った。参加者から、「看護師の患者さんや家族とのコミュニケーションの取り方に驚いた。」、「看護師には技術だけでなく、コミュニケーション能力も必要だと思った。」、「すごく大変な職業だなと改めて思った。」、「患者さんを安心させてあげられるような看護師さんばかりで、私もそんな看護師さんになれたらいいなと思った。」、「病棟毎に雰囲気が違って、様々な工夫がされていた。」などの感想が寄せられた。

〈看護体験スケジュール〉

時間	項目
8:50～	白衣に更衣
9:00～	オリエンテーション
9:10～	手洗い演習などの感染対策講習
10:00～	病棟での看護体験
12:30～	昼食として病院食の試食
14:00～	院内見学（外来、ドクターヘリ、ベッドセンターなど）
15:00～	ミーティング、アンケート記入
15:30～	看護部長より「参加証」授与
16:45	更衣後終了



体験の様子

5. 阪大病院フォーラム

本院は、先進医療推進など特定機能病院としての役割はもとより、地域の中核病院としての役割も果たしている。このような状況において、本院がより一層の発展をするためには、重要なトピックスや取組み等について関係者に広く情報を提供し、意見を交換し、多くの理解と支援を得ることが肝要と考える。このため、その時々トピックスを中心にしたフォーラムを平成14年度から開催しており、病院内外から多数の人が参加している。

令和元年度開催分

開催回 年月日	テーマ・主な内容
第195回 令和元年 5月15日	(救急医療) 「G20大阪サミット救急医療体制における本院の役割」 高度救命救急センター センター長 嶋津 岳士 特任助教 酒井 智彦 助教 入澤 太郎
第196回 令和元年 5月28日	(移植医療) 「阪大病院 移植医療部の取り組み」 移植医療部の紹介 移植医療部／小児成育外科 教授 奥山 宏臣 臓器提供について（ドナー側） 高度救命救急センター 助教 吉矢 和久 高度救命救急センター 看護師長 中土居 智子 移植について（レシピエント側） 心臓血管外科准教授 戸田 宏一 移植医療部看護師長 萩原 邦子

第 197 回 令和元年 6 月 10 日	(生殖医療) 「当院における医学的適応による妊孕性温 存について」 生殖医療センター 副センター長 瀧内 剛
第 198 回 令和元年 6 月 20 日	(医療機器・医薬品安全講習会) 「第 1 回 医療機器・医薬品安全講習会」 放射線部診療放射線技師 垂脇 博之 薬剤部薬剤師 田中 華奈
第 199 回 令和元年 9 月 26 日	(防火・防災) 「業務継続計画 (BCP) の改訂内容について」 災害対策室 特任研究員 梅田 幸治
第 200 回 令和元年 10 月 9 日	(医療機器・医薬品安全講習会) 「第 2 回 医療機器・医薬品安全講習会」 臨床工学部臨床工学技士 谷口 雅貴 薬剤部薬剤師 中塚 美穂
第 201 回 令和元年 10 月 23 日	(保険診療) 「保険制度・医療法の必須知識 (保険医療 機関及び保険医療養担当規則から)」 株式会社ニチイ学館医療関連事業本部 事業推進部 増永 清子
第 202 回 令和元年 10 月 25 日	(特定機能病院) 「病院機能評価「一般病院 3」について」 社会医療法人仙養会 北摂総合病院 理事・病院長代理 小林 一朗
第 203 回 令和元年 11 月 13 日	(医療訴訟) 「医療訴訟ガイダンス」 大阪地裁 裁判長 山地 修 大阪地裁 裁判官 甲元 依子 大阪地裁 裁判官 田郷岡 正哲 大阪地裁 裁判官 野上 恵里
第 204 回 令和元年 11 月 27 日	(警備・救助・災害対応) 「海上保安庁の活動を知ろう」 第五管区海上保安部 業務係長 小川 佳伸 関西空港海上保安航空基地 機動救難士 山形 和也 関西空港海上保安航空基地 機動救難士 多田 浩司
第 205 回 令和元年 12 月 18 日	(感染対策) 「専門医共通講習会 「薬剤耐性菌と抗菌 薬適正使用」」 感染制御部長 朝野 和典
第 206 回 令和元年 12 月 23 日	(防火・防災) 「火災の基礎知識と状況判断～京都アニ メーション火災の事例より～」 災害対策室 特任研究員 梅田 幸治
第 207 回 令和 2 年	(医療機器・医薬品安全講習会) 「第 3 回 医療機器・医薬品安全講習会」 臨床工学部臨床工学技士 久本 拓矢

2 月 19 日	産科婦人科助教 柿ヶ野 藍子 薬剤部薬剤師 中村 早織
第 208 回 令和 2 年 3 月 5 日	(特定機能病院) 「高齢者総合機能評価について」 老年・高血圧内科 助教 赤坂 憲 「令和 2 年度診療報酬改定の概要につい て」 株式会社ニチイ学館医療関連事業本部 経営支援課 三刀谷 美智恵
第 209 回 令和 2 年 3 月 18 日	(医療安全) 「医療ガスに係る安全管理について」 株式会社エフエスユニ 管理部支援企画課 大越 雪乃

6. 心肺蘇生研修

医師及び看護師への心肺蘇生教育として、心停止を含めた急変患者への対応を学ぶための講習を年 7 回開催した (写真)。このうち 5 回は院内の医師、看護師を対象とした二次救命処置講習 (大阪府医師会認定 ACLS、かつ日本救急医学会認定 ICLS) であり、残りの 2 回は内科専攻医を対象とした内科救急・二次救命処置講習 (日本内科学会認定 JMECC) として行った。

これらの講習を円滑に行うために、院内にリスクマネジメント委員会の下部組織として平成 28 年度より ACLS ワーキンググループが組織されており、指導資格を持った医師、看護師、臨床工学技士が委員として参加している。ACLS ワーキンググループはリスクマネジメント委員会と連携しつつ、医事課や教育研究支援課を含めた各部署と協議のもとで講習会を運営している。

初期研修医に対しては 4 月の研修イントロコースの中で講習を行っている。また新人看護師については、一次救命処置講習 (BLS、AED) を就職早期に、全員を対象に行っている。また各部署単位で、定期的に急変対応のシミュレーショントレーニングを行っており、適宜 ACLS ワーキンググループ委員が指導にあたっている。

その他、院内各所に自動体外式除細動器 (AED) が配備されており、医療従事者以外の院内職員、医療ボランティアに対する、第一発見者のための一次救命処置講習会 (PUSH 講習会) を定期開催している。

